

出向により得られた経験

2019年4月1日からの2年間、高島市役所から滋賀県庁へ「いきいき新自治体交流派遣職員」として出向していた。知事公室防

20年度からは、災害時に被害者となる割合が高い高齢者や障がい者等の方々の避難対策を担当した。この仕事は、防災部局と福祉部局の連携はもちろん、市町、福祉専門職団体など様々な団体との

所属・団体への相談や協議に足を運んだ。何度かそのような動きをしていると、その所属や団体から「〇〇課もこの件について熱心に考えている」「●●団体は押さえ

きていく。コロナ対策をはじめ、多様化、複雑化している地域課題にこそ、住民の立場に立つて組織を越えて連携する取組みが求められている。これからの自治体の仕事について、連携することを重要視して取り組むことができれば、仕事の質もより高いものになってくる。

「〇〇課もこの件について熱心に考えている」「●●団体は押さえ

これは、市区町村と都道府県、そして国の省庁等との連携についても同様のことが言える。立場を越えて課題解決のために互いに理解を深め、協力することができれば、今までは遠くに感じていた存在であっても比較的簡単に連携でき、住民のためになる効果的な仕事ができるのではないだろうか。

越境して未来を拓く仕事の流れを創出する

垣根のある組織間をつなぐためには、越境する行為が必要である。越境し、相互の信頼関係を築き連結することができれば、それは実質的にしつかりと仕事が行われる「連携」になる。ハードルが高いと思っていた連携も、解決したい課題や実現したい社会モデル等が同じであれば、越境により実効性のある連携が可能になる。

出向からの帰任後、健康福祉部社会福祉課勤務となった。この人事異動については、県庁で行っていた避難行動要支援者の避難支援対策について、引き続き市の立場でこの仕事を担当できるようにとのメッセージが付いていた。このメッセージを受け、高島市という組織、そしてこの地域に出向の経験を還元したいとより強く思った。



本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第40回

“越境”による「連結」から、実効性のある「連携」へ ～組織間をつなぎ未来を拓く仕事を実現する

災害機管理局勤務になり、県内全域での防災施策の普及啓発、関西広域連合や中部圏域等との広域災害応援への対応等、市では経験できないような広域的な観点が必要とされる仕事を担当した。

連携が必要な仕事であった。この仕事を担当する上で、出向職員であった私は、県庁内の縦横のネットワークやアプローチの方法等はほぼ皆無であったため、暗中模索を繰り返しながら、他の

越境は、組織間の垣根を越えてつなぐという物理的な意味を持っているが、越境という行為を起す自分自身が勇気を持ち、限界という境界線を越えるという精神的な意味も含んでいる。信頼関係はそんな小さな勇気の積み重ねで

メッセージ付きの人事異動